

<実践発表について>

- 科学事象を体験できるようにすることが大切だと分かったので、**導入を工夫**していきたい。
- 実践研究を通じて学び合うことができてよかった。わかりやすい発表だった。
- 地域の教材**を使用して、また授業をしてみたいと思った。
- ロイロノート**を活用して、個別最適で、協働的な学習を実践してみたいと思った。
- 岡田先生の実践から、**目に見えないことをイメージ**させ、子ども達の思考をつないでいきたい。
- 羽柴先生の実践から、**日常とつなげるための導入と終末の活動の工夫**について大変参考になった。
- 地域特有の教材**を使った実践や、生活と結び付けた発展問題を提示された実践など、勉強になった。
- 広見小の先生の実践から、児童の願う姿に向かって、**ステップを踏んで指導を積み重ね**られ、変容につながっていったことを感じた。
- 亀山先生の実践からプログラミング教育を通して、問題解決学習行っていることに興味をもった。教材とても扱いやすく、楽しく学べそうだなと感じた。ぜひ、本校でも取り入れてみたい。
- 今日的課題を踏まえて**、県の理科教育が目指している授業を具体的に学ぶ機会となった。
- 日常生活をつなぐことを大切にした実践だった。10年くらい前に、自身も実践していたことを思い出した。**普遍的な課題**だと感じた。

△発表内容とそれを支える研究部として指導要領の解釈に関しては、県の研究部が積極的にして差し上げないと、発表者が基本的な理論で置くことになるかと思います。理論として精緻化することをされる
と、授業者の子供への熱い思いがより伝わるのではないのでしょうか。また、発表に参考文献がないこと、研究倫理が掲載されていないことが気になりました。昨今の研究界隈では、このあたりを執筆することで研究そのものの信頼性（作り話ではないことの証明）、ひいて発表者の信頼性を担保することが求められています。研究するにあたり、授業者も子供も大切にできる岐阜県の理科教育であってほしいと思います。

☆少数の発表しか聞くことができなかったので、発表者が多くないのであれば分科会の数を減らすなどしてはどうか。

- ・実践交流を通して学び合える場となった。→継続していきたい。
- ・オンラインは、つながりにくく分かりにくい状況だった。→発表者はマイク使用、プレゼンは共有
- ・分科会の数を減らしてはどうか→今年度は3つ。例年は2つだが発表者の数は共に6人。発表者の減少や発表者への還元等の視点から人数を減らしてはどうか。

<体験プログラムについて>

- 関鍛冶伝承館は、説明もわかりやすく見学も興味深いものばかりだった。
- 気になっていたけどなかなか行く機会がなかったので、良かった。どうしてその工程が行われるのか知りたくなった。調べてみようと思う。
- 丁寧な説明を受け、関市の宝である刀剣について興味深く学べた。その地ならではの企画。貴重であると感じる。岩屋校長先生をはじめ、関市、美濃地区の先生方、ありがとうございました。
- プログラミングの体験授業を受けましたが、分かりやすく丁寧に教えていただけた。授業に生かしていけるようにしたい。
- 県博のバックヤードの見学をしたかった。またの機会を楽しみにしている。
- 参加していない。そういった選択肢があるのはとても良いことだと思う。

- ・体験プログラムがあることで、参集する意義を感じられとても良かった。
- ・関市、美濃地区の先生方が全てやってくださりとてもありがたかった。開催地の先生方と今後も協力していきたい。